

## 外国語科学習指導案

日 時 令和4年11月18日(金)  
第4校時 11:50~12:40  
対 象 2年C組(38名)  
場 所 本校2年C組教室

## 1 単元名

“How Good Is Your Memory?”

教科書:” Revised BIG DIPPER English Communication II”

## 2 単元の目標と評価規準

## (1) 単元の目標

本文の内容を踏まえ、良い学習方法について考え、話し合うことができる。

## (2) 単元の評価規準

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p><b>【知識】</b> 本文で述べられている記憶法についての概要・方法論を理解している。[読む力]</p> <p><b>【技能】</b> ・相手の発言に対して反論する、または発言を強化する技能を身に付けている。[聞く力]</p>	<p>・本文の内容を踏まえ、効果の高い記憶法について英語を用いて考察し、そこから読み取れる事実を端的に述べている。[書く力、話す力(発表)]</p>	<p>・間違いを恐れず、グループ内での議論に参加しようとしている。[話す力(やりとり)]</p>

## 3 指導にあたって

## (1) 教材観

アカデミックな分野から身近な話題が幅広く網羅された教材であり、単元に合わせて多様な言語活動が設定できる可能性を秘めている。コンテンツについては「読む」能力にフォーカスされているため、4技能のバランスについて考えて現在は独自にハンドアウトを作成し、指導している。

文章の難易度は中程度である。単語数が少ないため、習熟度の高い生徒にとってはすぐに読解が終わり、学力の伸長という観点では別途レベルの高い教材を与える必要がある。しかし、集団全体に対する指導という観点では中庸をとっており、本校の実状に合致している。

## (2) 生徒観

本校は所謂進路多様校であり、偏差値帯は38~60以上と幅広い。そのため、入学当初より大学進学を見据えた生徒層へのハイレベルな指導と、中学校段階の学習内容が定着していない生徒層に対する学び直しの指導という二律背反の方向性を両立させる必要がある。

また、本校2年次生徒全体に共通していることは、こと英語に関しては知識の「習得」に終始していることである。そのため、今後の学習を通して知識の「活用」にシフトしていく必要がある。しかしながら、非常に素直な性格の生徒が多く、言語活動そのものは全員が積極的に取り組むことができる。

## (3) 指導観

前項(2)で述べたように本校生徒は学力の幅が大きいため、指導のレベルについては習熟度の低い生徒に対する「学力の底上げ」に焦点を当てている。また、成績上位層についても、グループワークを行った際に Student Teacher として役割を与えることで、理解の深化を図っている。

一方で、思考・判断・表現の領域については課題があり、言語活動においては指示された事柄については主体的に実行できるが、特に「判断・表現」の部分で困難を抱えている生徒が多い。そのため、2年次後期からはリテリング等の活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

## 4 単元の指導と評価の計画 (計13時間)

時間	ねらい (■), 言語活動等 (丸数字)	評価の観点			備考
		知	思	態	
9 (1 ~ 9)	<p>■ 読解を通して効果の高い記憶法について理解する。</p> <p>① 本文を読解する。</p> <p>② ディクテーションを行い、結果を自己採点する。</p> <p>③ リテリング活動またはリライト活動を行う。</p> <p>Part. 1 - Part. 4 の読解については1パートあたり2時間を目途として、進める。(1単位時間)</p>	○			リテリング活動のリフレクションシート、もしくはリライト活動の成果物を用いて評価する。
3 (9 ~ 11)	<p>■ 本文の内容を踏まえ、効果の高い英単語の記憶方法について考察し、提示する。</p> <p>① 個人で効果の高い英単語の学習方法について考察し、原稿を書く。</p> <p>② グループ内で原稿の読み合わせを行い、発表に向けたアイデアの選定を行う。</p> <p>③ グループ内で選んだ学習方法についてプレゼンテーションを行う。</p>		○		プレゼンテーション原稿による評価を行う。(論旨についてのみ評価する)
2 (12 ~ 13)	<p>■ プレゼンテーションで提示された学習方法を実践し、結果について議論し、リフレクションを行う。</p> <p>① 小テストを行い、学習の効果を測定する。</p> <p>② 異なるグループのメンバーで学習の効果について情報共有する。</p> <p>③ 個人で「最も効果的な英単語の学習方法」について日本語によるリフレクションを行う。</p>			○	②、③の段階で評価を行う。②については活動の様子の録画、録音による評価を行う。③についてはリフレクションシートを用いた評価を行う。

5 パフォーマンステストの実施計画

領 域	<input checked="" type="checkbox"/> 話すこと [やり取り] <input type="checkbox"/> 話すこと [発表] <input type="checkbox"/> 書くこと
関連する Can-Do リスト	第2学年 日常的な話題について、質問に答えたり、自身の考えや気持ちを話し合ったりすることができる。
実施内容	事前に実施したテスト結果をもとに、「最も効果の高い英単語学習方法」について、グループで協議する。
実施方法	前提 1. グループ（4-5人構成）で設定した学習方法を1週間実践する。その際「1度だけ集中して勉強する集団」と「短時間の学習を毎日続ける集団」に分かれる。 2. 英検1級程度の単語についてテストを行い、テストの結果をグループごとに記録する。 実施方法 1. 異なるグループの生徒同士が集まり、チェアマンを1人選出する。 2. 活動の様子について各グループが録画を行う。（動画は教員と共有） 3. チェアマンはテンプレートに則り協議を進める。 4. 「最も効果の高い英単語学習方法」について結論を出す。 5. グループを解散し、リフレクションシートを用いて個人による振り返りを行う。

■ 採点の基準

<p>○「知識・技能」についての3つの条件</p> <p>条件1：他者の発言に対して、発言により賛成または反対の立場を示した。</p> <p>条件2：Therefore, などの接続詞等を適切に用いた。</p> <p>条件3：他者の発言に対して、賛成意見または反対意見を根拠とともに述べた。</p> <p>○「思考・判断・表現」についての3つの条件</p> <p>条件1：テストの結果から効果的な学習方法について仮説を立てた。</p> <p>条件2：テストの結果から読み取れる事柄を端的に述べている。</p> <p>条件3：効果的な学習方法について述べている。</p> <p>○「主体的に学習に取り組む態度」についての3つの条件</p> <p>条件1：チェアマンの質問に積極的に（他者と相談等をせずに）答えている。</p> <p>条件2：主体的に発言 or 質問をした。</p> <p>条件3：発言に対して相づちを打つなどのリアクションをしている。</p>
--

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	・全ての条件を満たしている。	・全ての条件を満たしている。	・全ての条件を満たしている。
b	・2つの条件を満たしている。	・2つの条件を満たしている。	・2つの条件を満たしている。
c	・0～1つの条件を満たしている。	・0～1つの条件を満たしている。	・0～1つの条件を満たしている。

6 本時の展開 (13/13 時間目)

(1) ねらい

- ・実験の結果を受けて、グループで英語を用いた協議ができる。

(2) 展開

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	前回の振り返り テスト結果の開示	・テスト結果を受け取り、成績データの分析を行う。	・データ分析の方向性（着目すべきデータ、仮説の立て方）についてはテンプレートを示す。
展開	【ねらい】 「最も効果が高い英語の学習方法」について、根拠を基に話し合う		
	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他グループの考察について聞き、質問や感想などを述べる。</li> <li>・チェアマンを1人選出し、チェアマンがメンバーに質問やコメントを求める。</li> <li>・何らかの方法で「最も効果が高い英語の学習方法」を選出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク時にはプロジェクターを用いてループリックについて提示し続ける。</li> <li>・グループワークの様子は生徒のスマートフォンを使用して、録画してもらい、終了後に教員と動画データの共有を行う。</li> </ul>
	【ねらい】 話し合いの内容について即興で発表する		
	シェアリング	各グループ内で決定した「最も効果が高い英語の学習方法」について他グループに紹介する。	・紹介する際の論法については、事前にワークシートを配布し、テンプレートをなぞりながら一部をオリジナルで表現させる。
まとめ	振り返り  リフレクションシートの回収	・グループを解散し、個人でリフレクションシートに記入する。	・「身につけた資質能力」という観点で振り返りを行うよう全体指導し、その後机間巡視によってコメントに窮した生徒に適宜助言を行う。